



突撃!

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

2018
8月号

No.108 山口県立総合医療センター 医療安全推進室 看護師長 リスクマネージャー 木原雅子様



【山口県立総合医療センター／山口県防府市】



【木原様】

■病院の紹介（抜粋）

昭和 24 年 4 月 1 日	日本医療団山口県中央病院から 山口県立防府総合病院（病床 104 床）へ移行
昭和 28 年 7 月 17 日	山口県立中央病院に改称
昭和 30 年 2 月 26 日	新病院（病床 374 床）へ完全移転
昭和 38 年 7 月 1 日	病床編成替（計 425 床）
昭和 46 年 6 月 6 日	病床編成替（計 425 床）
昭和 58 年 4 月 21 日	新病院竣工
昭和 58 年 4 月 28 日	病床編成替（一般 500、伝染 25、計 525 床）
昭和 58 年 5 月 2 日	新病院開院（防府市大崎）
平成 15 年 4 月 1 日	病棟・病床再編（一般 481、感染症 12、計 493 床）
平成 17 年 4 月 1 日	山口県立総合医療センターに改称
平成 18 年 1 月 7 日	病床編成替（一般 490、感染症 14、計 504 床）

■病院の基本理念

県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する。

1. 患者本位の医療
2. 良質な医療
3. 親切的な医療
4. 信頼される医療
5. 地域に開かれた医療を提供し、県民の健康に資する。

■病院の基本方針

医学・医術の進歩、疾病構造の変化、医療領域の拡大、医療の情報化に対応できる基幹病院として、県内の医療機関との機能分担と連携を図るとともに、県民の健康と生命を守るために良質で満足度の高い医療を効率的に提供し、県民の福祉の増進に寄与する。

1. 救急・周産期・がん・へき地医療など高度専門・特殊医療等の推進
2. 災害時医療及び感染症対策への積極的な取組
3. 本県の医療水準維持・向上のための支援機能の充実
4. 医療の安全性の確保と患者サービスの充実
5. 経営健全化のための一層の取組

1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制について教えてください。

医療安全推進室は病院運営上の安全に関わる重要な部門とされており、病院長直結で組織されています。(図 1) メンバーは医療安全推進室長をはじめ、専従リスクマネージャーの私を中心に、薬剤・ME・事務・診療・看護の部門と兼務する室員合計 9 名で組織横断的に連携をとりながら医療安全文化の醸成に力を入れています。(図 2)

	年度別	年度別				四半期別			
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2016/10	2017/01	2017/04	2017/07
貴院	数値	0.00025	0.00023	0.00029	0.00016	0.00024	0.00021	0.00008	0.00023
全病院	25パーセンタイル	0.00032	0.00034	0.00033	0.00034	0.00035	0.00029	0.00030	0.00034
	50パーセンタイル	0.00053	0.00056	0.00054	0.00056	0.00055	0.00050	0.00053	0.00061
	75パーセンタイル	0.00103	0.00094	0.00097	0.00097	0.00102	0.00082	0.00105	0.00103
500以上	25パーセンタイル	0.00033	0.00033	0.00029	0.00032	0.00029	0.00021	0.00029	0.00033
	50パーセンタイル	0.00047	0.00054	0.00051	0.00065	0.00044	0.00049	0.00055	0.00066
	75パーセンタイル	0.00103	0.00074	0.00068	0.00100	0.00075	0.00068	0.00106	0.00101
全病院	平均値	0.00073	0.00078	0.00077	0.00083	0.00080	0.00072	0.00079	0.00087
500以上	平均値	0.00070	0.00074	0.00066	0.00079	0.00061	0.00065	0.00080	0.00078
全病院	登録数	113	156	164	160	152	149	158	154
500以上	登録数	23	25	25	23	23	21	23	23

表 1【全国自治体病院との当院の発生率の比較】

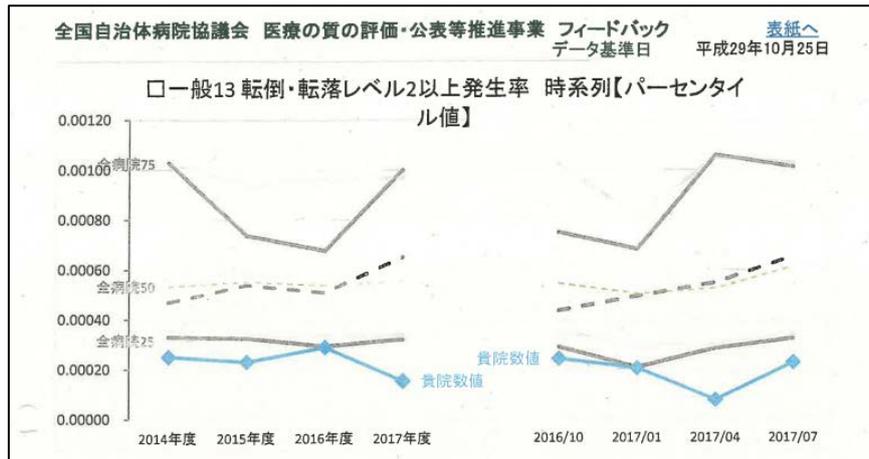


図4【全国自治体病院協議会 医療の質の評価・公表等推進事業 フィードバックより】

事故防止のための人的対策（専門チームでの活動・ラウンドの工夫など）を教えてください。

看護部では看護安全委員会があり、私はリスクマネージャーとして指導的な役割を担っています。この委員会は各部署のリンク委員と主任、師長で構成されています。主任以上のメンバーはワーキングを作り活動しています。本年度は「転倒・転落対策」「抑制対策」「誤認防止対策」の3つで活動しています。「転倒・転落チーム」は年に2回、危険レベル2以上の患者さんを対象にラウンドをして安全チェックを行っています。

院内ラウンドは月に1～2回、医療安全対策委員会のメンバーと共に医療安全に関わる環境のチェックや対策の評価をしています。医療安全管理マニュアルの徹底も内容として取り入れ、部署毎に合わせた内容で指導しながらラウンドしています。また、院長ラウンドに同行し、ベッドサイドの安全性を確認しています。主には、「ポータブル3点セット」と呼んでいるもの（ポータブルトイレ・手すり・すべらないゴムマット）の設置・患者さんのネームバンド装着確認・療養環境の安全性チェックなどです。

医療安全推進室では現在3つのワーキンググループ（内服自己管理システム導入・静脈血栓塞栓症予防・せん妄予防）を立ち上げ、体系的な対策をワーキングのテーマに沿って取り組んでいます。

特に注力されている貴院の特徴的な取り組みやシステムがあれば教えてください。

ベッドサイドにあるテレビで、患者さんに無料で見ていただく「院内12チャンネル」というものがあります。その中に「転倒・転落についての注意喚起」のチャンネルがあり転倒予防やベッド上でできる運動について、入院時の患者さんに見ていただき、映像として脳裏に残るよう動画を使用しています（図5）。

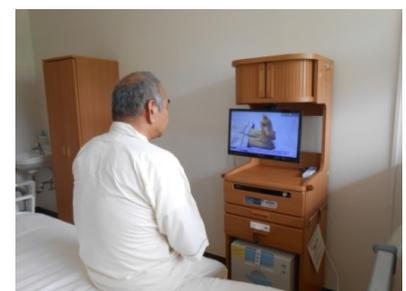


図5【院内12チャンネル視聴の様子】

3. 医療安全に関する研修について

医療安全に関連した研修の年間実施計画や、地域病院との医療安全に関する連携があれば内容を教えてください。

年に2回の研修を行います。以前は多数回開催していたこともありましたが、当院では参加率が上がりませんでしたので、テーマを身近なものに変更したところ（マニュアル順守・事例報告・再発防止策）99%を超える参加率になりました。また医療事故調査制度で取り上げられている医療事故を想定した訓練を実施し、万が一に備えています。

地域病院との連携は、「地域医療連携加算制度」の関係で、「加算1」の3病院とチェックを行います。「加算2」の4病院についても準備中です。

また、平成23年以降、山口・防府圏域では看護協会主催の研修会が年に3回あり、私も参加して、他院とその場で情報交換を行い相互に意識を高め合っています。

4. 離床センサーについて

使用センサー： コールマット・コードレス × 5台 コールマット・徘徊コールⅢ × 15台
徘徊ナビ・ポケット × 3台

離床センサーを使用する場合の基準や使用中の課題があれば教えてください。

患者さんごとにアセスメントを行い、リスク評価が2以上の場合や脳神経センター入院で抑制解除後の場合には、離床センサーを使用することとしています。離床センサーが鳴るとスタッフが患者さんをすぐに介助できるので非常に役立っています。ただ使用時にスタッフが誤ってセンサーを踏んで、報知してしまうことや、センサーだと気付いた患者さんがセンサーを避けるような動きがあることを課題に感じています。

※コードレスの一時停止機能について <http://www.technosjapan.jp/correspond/qa/pdf/89o.pdf>

※センサー設置の工夫について(テクノス通信現場リポート) <http://www.technosjapan.jp/correspond/scene/pdf/93g.pdf>

※離床センサー使用の効果や管理方法については、今号の「現場リポート」でご紹介いたします。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

見守りが必要な患者さんのトイレ行動の際、共用トイレを使用する時は、ドアが閉まった状態にするので見守りが難しいです。トイレ行動が終了した時に例えば便座を離れたことを知らせてくれるようなセンサーがあれば欲しいです。

※トイレコールについて <http://www.technosjapan.jp/product/sensor/toiletcall/index.html>

6. 何か一言お願いいたします。

病院のPRやポリシーなどをお聞かせ下さい。

私が医療安全に携わって10年以上が経過しましたが、転倒・転落のデータを蓄積して分析し、対策に生かしています。これにより、スタッフが毎年地道に安全で質の高いケアに努力し、「転ばない、転んでも患者さんに有害事象が起こらない病院」になってきたと思います。決められたルールに従い、危険を予知し、看護の気付きを大切にしながらコツコツ地道に確実に成果を出してきたことに対して、スタッフには自分自身と病院に誇りを持って働いて欲しいと思っています。